

平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	熊本大学	整理番号	1-4-022
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	IT環境を用いた自立学習支援システム		
申請単位	大学全体		
申請担当者	足立 啓二		
<p>(取組の概要)</p> <p>熊本大学は全国の大学に先駆けて、総合的な学務情報システム SOSEKI を全学的に開発・運用してきた。本システムを通じて、シラバスの作成、シラバスをもとにした履修登録、受講者把握と履修指導、学生による授業評価と教員による成績評価など、各種の教育情報交換を、一貫して敏速かつ緊密に行うことができるようになっている。</p> <p>当大学では、高度情報化キャンパス構築という将来構想の一環として、SOSEKI の機能強化と、各種学習情報機能のリンク形成を軸に、IT 環境を用いた学生の自立学習支援システムを発展させる計画である。SOSEKI による履修過程支援の充実によって、学生が本学の教育プログラムを踏まえ、自己の関心と将来設計に従って、最適の履修計画を策定することなど、自主的な学習の計画・実施が容易になる。また学習情報支援の充実によって、学習を深めるための情報、学習方法のアドバイスを、学生は自ら随時入手し、処理することができるようになる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、「自立的学習を支える情報システム」を実現するため、すでに7年にわたって実施されているものです。IT 環境を用いた学習支援システムは今日では多くの大学で普及していますが、熊本大学はその先駆的な立場であり、多くの実績があり全学的体制のもと将来に向かって高度情報化キャンパスづくりの意欲が感じられます。今までの実績、大学の組織的な対応などから、個々の取組として先駆的なものであり、それらを総合的に統合する方法は、他の大学に対し十分参考になる事例と認められました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	秋田県立大学	整理番号	1-4-017
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	問題発見・解決支援型の学生自主研究制度		
申請単位	大学全体		
申請担当者	鈴木 昭 憲		
<p>(取組の概要)</p> <p>秋田県立大学では、時代の変化に対応できる問題発見能力と解決能力を兼ね備えた人材の育成を目指しており、そのために学生の学習意欲・効率向上のための「対話」と「実践」を重視した教育を行ってきている。</p> <p>当大学が取り組んでいる学生自主研究制度では、希望する学生が入学してすぐに自ら研究グループを組織し、研究計画の立案、実施等を行い、大学では研究資金の交付と教官による技術指導によって学生の主体的な研究を効果的に支援することとしている。</p> <p>一例では、自然エネルギーを動力源にした自家発電装置で、ネパールの山村の発展に貢献したいと考えた学生グループが、自主研究制度を活用して水力発電装置を設計し、その設計を基に企業が装置を制作した。現在は、ネパール政府やNGOの理解も得ながら、現地への設置に向けた新プロジェクトとして活動中であり、こうした自主研究を通して実社会に対応しうる人材が育成されていると考えている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は秋田県立大学で、「問題発見・解決支援型の学生自主研究制度」として、創設の平成11年度から実施されているものです。①特色性、組織性、学内支援体制などの面で優れています。②とくに低学年から意欲と能力のある学生の自主的学習と研究を促進させ、結果を明らかにしている点、③適正な規模で適当な研究費が支出されている点を高く評価します。全体として、他の理工系大学に対し十分参考になる事例と認められました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	神田外語大学	整理番号	1-4-007
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	英語の自立学習支援の新システム		
申請単位	大学全体		
申請担当者	フランシス ジョンソン		
<p>(取組の概要)</p> <p>申請した取組は、能力や学習スタイルなどの学生の個人差に本格的に対応し、学生が授業以外でも自主的に英語を学習する時間を増やすための学習支援システムである。その中核としてSACLA<sup>サクラ</sup>というセンターを設けている。本センターには、11言語・15チャンネルの海外放送の受信施設を備えている他、学生が自分で選択した時間・教材・学習スタイルで語学学習ができるエリアや学生が英語を母国語とする教員と交流を図ることができるエリア、それに英語による密度の高い双方向コミュニケーションを実現する多機能教室のエリアを設けている。各エリアはお互いに関連し、教育と学習が多様かつ柔軟に行われるようにしている。センターには専任のラーニング・アドバイザー3名が常駐し、学生が自ら学習計画を立て、その達成度を評価する過程を通して、学習者としての自分を見つめ、究極的には自立した学習者に育っていくように援助している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、神田外語大学の教育目標である「実践的な外国語運用能力、自ら問題を発見し解決できる能力、異文化コミュニケーション能力の育成」を実現するため、1989年以来 ELI を中心として実施されている教育研究経験の蓄積をベースに発展充実させてきたものと認められます。</p> <p>特に、組織性、継続性、発展性について優れた面があり、全体として優れた特色がある取組で、他の大学に対して十分参考になる事例と認められました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	創価大学	整理番号	1-4-015
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	「学生中心の大学」のための教育・学習支援 －「教育・学習活動支援センターの取組」－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	馬場 善久		
<p>(取組の概要)</p> <p>創価大学は、「人間教育の最高学府たれ」との建学の理念を具体化し、「学生中心の大学」のための教育・学習支援を教育目標に定めた。学生の多様化が進む中で、教育制度改革に取組むとともに、学生の学習意欲の向上と教員の教授法改善、あるいは教育活動支援との有機的な連携を目的として、2000年に「教育・学習活動支援センター」(Center for Excellence in Teaching and Learning : 略称 CETL) を開設した。</p> <p>本センターの学習活動支援は、基礎学力向上のための各種講習会の開催と個別学習相談などであり、教育活動支援は、各種FD講演会、教授法などのワークショップ開催と授業見学会・教育サロンの開催などである。これらの活動を通じて学内諸機関と連携を取り、総合的な学習支援体制の構築を進めている。取組の成果として、学生の学習意欲の向上、授業の改善、カリキュラムの改革が挙げられる。また授業アンケートなどのデータを用いることで、本取組の成果の検証に努めている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、創価大学の教育目標である「学生の学習意欲の更なる向上と教員の教育力向上との有機的な連携」を実現するため、2000年より実施されているものです。とくに、「教育・学習活動支援センター」を中心に、学生のニーズを把握・分析し、それを速やかに教育制度改革や教授法の改善に結び付けていく全学的組織の体系と地道な努力は高く評価できます。FD、授業公開、授業評価など、教員の教育力を高める努力も優れたものです。学習支援の実績も量的に把握され、公開され、実践力を備えた仕組みと評価できます。全体として優れた特色があり、他大学に対し十分参考になる事例と認められました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	日本福祉大学	整理番号	1-4-032
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学生とともにすすめる障害学生支援 —障害学生とともに全学生が成長しあう教育システム—		
申請単位	大学全体		
申請担当者	加藤 幸雄		
(取組の概要)			
<p>創立時から障害学生の受入を行ってきた日本福祉大学には、現在 153 名の障害学生が在籍している。本学における障害学生支援の特徴は、学習弱者を生まないシステム作りを基本に、①障害学生を「サービスの受け手」ではなく、「ともに考え、育ちあう仲間」として位置づけていること、②入学から卒業まで一貫した支援体制を行っていることである。障害学生自身が自らの能力を伸ばして主体的に成長するとともに、支援する学生・教職員も障害学生と接する中で、広い視野と豊かな人間性を身につけて成長していく。支援事業を通じて、心のバリアフリー化が図られるとともに、教育・研究の改善・発展が図られている。平成 10 年の障害学生支援センター発足により、全国に先駆け、大学のシステムとして支援事業が展開されている。本学では、この支援事業の経験を生かして、教育のユニバーサルデザイン化や企業と連携した障害者・高齢者支援機器開発、地域と連携したサポート学生の育成化と地域のバリアフリー化の促進を、教育研究活動の一環として積極的にすすめていく計画である。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、日本福祉大学の教育目標である「万人の福祉のために、真実と慈愛と献身を」を実現するために、すでに 33 年にわたって組織的に実施されてきております。</p> <p>この取組は、関係者の永年の努力により、健常学生も含めた、総合的な教育、学習機能をも備えたシステムに発展させてきております。特に障害学生に対する入学から卒業までの一貫した支援とともに、大学全体が障害者支援者育成の場となり、学内障害者の支援を通じて障害学生と健常学生がともに成長しあう教育実践の場となっており、またその活動成果を積極的に社会に還元している点についても優れた面があり、全体として優れた特色が認められ、他の大学に対し十分参考になる事例と認められました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	新潟工業短期大学	整理番号	2-4-008
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学力が不足する学生のための支援活動		
申請単位	学科単位		
申請担当者	峯山 晴紀		
<p>(取組の概要)</p> <p>新潟工業短期大学自動車工業科の入学志願者の主たる目的は、二級自動車整備士国家資格取得にある。しかし、本学は小規模校であり、入学志願者数は景気動向に左右される。また、近年の 18 歳人口の急減や若者の工学離れの社会情勢の中で、学力不足をはじめ多様な学生を受け入れざるを得ない。</p> <p>このため本学では、学力が不足する学生を支援するため、入学内定者に「入学前ゼミナール」、入学時に「基礎学力調査」、入学後は「補習授業」、「国家試験対策模試及び補習」などを実施している。</p> <p>また、「イントラネットによる出欠調査システム」を構築し、全教員が学生の授業の出欠をリアルタイムに把握して適時の指導に力を入れている。</p> <p>さらに「学内奨学制度（学費の一部減免）」を設け、学習意欲の向上や女子学生の志望の助長を図るなど、経済面からの工学教育の支援も行っている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>学生像の変容は、新潟工業短期大学のみならず、全国的規模で多くの大学・短期大学に共通して見られる現象です。とりわけ学力不足や学習意欲の減退は、深刻の度合いを増しているところが少なくなく、この取組による学生たちの変容ぶり・改善ぶりは、公開性を持つものと考えられます。入学生数の推移や国家試験合格率の推移、退学率の推移を見ながら、学習支援・生活支援の方法を具体化していった手法は他校でも参考になるでしょう。また基礎学力調査や学内模擬試験の分析を通して成績状況報告書を作成し、学生の学力に対する共通認識を持つとともに、教員相互が教育評価の現状を報告し合うという姿勢は、真摯な教育改革の取り組みとして公開性に値するものと評価します。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	安田女子短期大学	整理番号	2-4-009
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学生の主体的運営によって成功したオリゼミ		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	多田 正利		
<p>(取組の概要)</p> <p>教育機関として最も懸念すべきことは、新入生の退学である。本学の退学率は毎年 1%前後(除籍を含む)と極めて低率で推移しているが、その最大の要因は「オリゼミ」である。本学の「オリゼミ」は、新入生の大学生活への適応支援、仲間作り、先生や上級生との絆作りを目的として、毎年5月に国立江田島青年の家において2泊3日の日程で実施している。昭和52年から27年間継続して実施しており、その間、形骸化せず実効ある形で継続できたのは、学生(2年生)主体の運営をしてきたからである。2年生は2泊3日の「オリゼミ」を成功させるために、6ヶ月かけて周到な準備を行う。「オリゼミ」で2年生が悩み揺れる新入生の心を開いてゆく手法には感心させられる。ある時点から新入生の顔つきが明らかに変わり、その時点で「オリゼミ」の成功を確信する。また、「オリゼミ」を通して、2年生が飛躍的な人間的成長を遂げることも大きな教育効果である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、27年間という長期にわたって継続しているもので、学生の主体的運営によって成り立っている点が特筆に価します。入学年次の5月に、2年次生のリードでオリエンテーションセミナーを開催し、その年の秋には、翌年のセミナーのリーダーが決まって伝統を受け継いでいくというサイクルは、短大ならではの取組といえるでしょう。また2年次生が自己開示することで、新入生の心をも開くという「語らいの時間」というグループ研修は、学生同志ならではの学びといえます。セミナーによって帰属意識が醸成され、セミナー終了後は、友人同士のカウンセリングが盛んに見受けられるというこの取組は、公開性に値するものと評価します。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	文化女子大学・文化女子大学短期大学部	整理番号	3-4-001
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	文化祭は“Collaboration & Creation”の場 －特色ある教育内容を活かし活力ある大学を創る実践的取組－		
申請単位	共同		
申請担当者	澤田 知子（文化女子大学）		
<p>(取組の概要)</p> <p>文化女子大学及び同短期大学部の「文化祭」は、短大創設の翌年に第 1 回を行い、大学創設により合同開催として、本年で第 53 回を迎える「学生・教職員全員参加で取組む公的行事」であり、主題である「文化祭は“Collaboration &amp; Creation”の場」は、取組理念を表す。行事の目的は「特色ある専門教育の内容を社会に公表しその評価を問う」ことに特徴があり、行事企画も「学生会活動（プログラム作成・催し物企画・クラブ活動など）」と「教育内容の公表（教科展示・バザー・ファッションショー・大学グリル・玄関モニュメントなど）」からなる。その結果、①学生にとっての学習成果の改善支援や人間的成長支援、②教員にとっての教育課程・教育方法の改善支援、③大学と地域・社会・世界との連携支援など、複合的効果がある点も特筆される。本年は「文化学園創立 80 周年記念文化祭プログラム」を計画しており、これによって活力に溢れた大学教育へのさらなる発展を期するものである。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、文化女子大学の教育目標である「社会の動向やニーズに適応した理論的・審美的な能力を具備した人材育成」を実現するため、53年にわたって実施されているものです。学生教職員が協同して学びあい創りあげるといふ特色ある教育支援プログラムであり、研究教育活動を公表する場としての大学祭本来の役割が自覚され、組織的な取組となっており、その継続的な努力が学生の学習上の利益となり、教育目標に対して優れた実績を上げており、他の大学に対し十分参考になる事例と認められました。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	山梨学院大学、山梨学院短期大学	整理番号	3-4-003
応募テーマ	主として学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	山梨学院学生チャレンジ制度 —— 学生の自主的探究心の涵養を目指して ——		
申請単位	共同		
申請担当者	込山 芳行 (山梨学院大学)		
(取組の概要)			
<p>本制度は、学生（個人又はグループ）が挑戦したいプロジェクトを企画・立案し、選考委員会による審査・認定を経て、そのプロジェクトを実施するものである。その際、奨励金を支給し、関係教職員が指導助言を行う。本制度の目的は「学生の課外活動を通じて得られる自主的な探究心と積極的な行動力の涵養」である。</p> <p>本制度は平成7年度から実施し、昨年度までの応募総数は201件（1749人）、うち81件（818人）が認定された。プロジェクトの内容は、調査研究型、ボランティア型、イベント企画型など多様であり、地域社会はもとより、海外の町村にまで及んでいる。実施報告書は学生課に提出され、大学祭で展示・発表、関係機関への情報提供を行う。</p> <p>本制度の実施を通して、学生の自主的探究心や積極的な行動力の涵養により、学園全体の活性化、他学生への刺激などの効果をもたらし、高く評価されている。今後、継続発展させるべく制度の充実を図っていきたい。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、山梨学院大学の理念である「個性派私学の旗手として、未来型学園のモデル校を目指し、意欲と活力に満ちた存在感のある学園づくりを推進する」ため、学生の「自主的な探究心と意欲的な行動力の涵養を目的」として、8年にわたって実施されているものです。相応の実績があり、予算規模に比して教育効果も大きく、他の大学に対して学生参加プログラム開発の参考となる優れた取組であると認められました。</p>			